

## 令和6年度台東区総合防災訓練の実施結果について

### 1 実施内容

- (1) 訓練想定 都心南部を震源とする直下地震が発生（台東区最大震度6強）  
(2) 訓練日時 令和6年11月24日（日）

第1部	8時30分 ～12時30分	休日閉庁時間に発災 ⇒ 直後の応急対応訓練 (応急災害対策本部・避難所・関係機関等)
第2部	13時00分 ～17時00分	平日開庁時間に発災 ⇒ 直後から6時間後までの応急 対応訓練（災対都市づくり部、災対健康部）

- (3) 訓練場所 台東区役所、台東保健所、緊急医療救護所（2か所）、避難所（4か所）、  
妊産婦避難所、道路や公園など仮想災害現場  
(4) 参加人員 423人  
(内訳) 区民(避難所運営委員会) 125人  
防災機関等（11団体） 24人  
区職員 274人

### 2 主な訓練成果と課題

#### (1) 第1部

##### ①防災機関等との情報連絡訓練

**成果** 発災時における各機関の役割、特性に応じた、具体的な初動対応が相互に把握でき、  
道路通行の可否など、発災当日に共有すべき情報がより明確となった。

**課題** 想定される被害状況に応じた情報連絡体制について、通信手段、リエゾンの役割など、  
より詳細な議論を関係機関で積み重ねる必要がある。

##### ②避難所運営訓練

**成果** 体育館等の避難者受入スペースについて、通路と滞在スペースへ区画分けを実施した  
ことで、収容可能人数等、各避難所の特性を理解し、具体的な受入れの流れを検討、確  
認することができた。

**課題** 運営上の取決めや共同生活に必要なルールを避難所運営委員会が中心となり、平常時  
から検討していく必要がある。

##### ③ドローン、スターリンク（衛星通信）を活用した情報収集訓練

**成果** ドローンでの映像をリアルタイムで災害対策本部の大型モニターに投影し共有すると  
ともに、墨田区災害対策本部と映像と音声を繋いだ連絡訓練を実施した。

なお、映像等の送受信には、災害時に強いスターリンクを活用した。

## (2) 第2部

### ① 災対健康部による応急対応訓練

**内容** 医療救護活動拠点の設置（保健所大会議室）、緊急医療救護所、妊産婦避難所の開設

**成果** 平日発災を想定し、保健所内での初動対応、緊急医療救護所及び妊産婦避難所への職員派遣と開設の流れを確認することができた。

**課題** 医師会等と連携した訓練も含め、訓練の精度と職員の練度を高める必要がある。

### ② 災対都市づくり部による応急対応訓練

**内容** 応急危険度判定の準備、区内道路等の巡回・道路啓開、給水拠点の開設等

**成果** 参加職員全員が、平日発災時の役割を確認し、部内各課が連携して巡回エリアの分担や、現地からの報告等を実施できた。これにより災害対応力の向上が図られた。

**課題** 災害情報システムの運用や職員行動マニュアルの更新すべき項目を確認できた。

また、地図上で被害状況を共有できる大型モニターや通信機器の整備を検討していく。



▲ 災対健康部の様子



▲ 災対都市づくり部の様子

## 3 令和7年度以降の方針

下記3点を実施し、区全体の災害対応力を向上させる。

### (1) 避難所運営訓練の実施

発災から数時間後を想定し、避難スペースの割り振りといった避難所の運営に特化した訓練内容を実施し、避難所運営業務のさらなる習熟に繋げる。

### (2) 本部機能の強化

警察、消防、自衛隊のリエゾン職員や、ライフライン事業者等と連携した訓練を充実させ、各機関との連携をより強固なものとするとともに、職員によるドローンの本格的な活用や災害情報システムの習得などにより本部機能の強化を図る。

### (3) 災対各部訓練の実施

令和8年度末までに、全ての災対各部が「台東区災害対策職員行動マニュアル」に基づいた応急対応訓練を実施していく。